

1999 年度 経済原論 : 期末試験

1999 年 7 月 21 日(月)

- ・以下の 5 問のうち 4 問を選択して解答すること。
- ・5 問選択した場合には、最高点を除くので、注意すること。
- ・配点は各問 25 点で、合計 100 点。

< 問題 >

[第 1 問] 空欄を適当な語で埋めなさい。(各 1 点)

経済学では、家計や企業のさまざまな経済取引を分析するために、家計が (1) であり、企業が (2) を目指すことを仮定する。これらの取引を行う場を市場と呼び、(3) (4) (5) の 3 つが代表的である。また、個々の家計や企業がプライステイカー (価格受容者) となるような市場を (6) と呼ぶ。(6) の下では、市場に任せておけば、経済取引は適切に行われる。

ところが、いくつかのケースでは、市場の調整機能がうまく働かない。このような現象を総称して「(7)」と呼び、(8) (9) の存在が代表として挙げられる。(8) には (10) と (11) があり、それぞれの例として「教育の効果」、「公害問題」が挙げられる。また、(9) は (12) と (13) の特徴を持つ財であり、この 2 つの特徴を完全に有しているものを、特に (14) と呼ぶ。(8) や (9) が存在する場合、(15) による調整・補完が必要となるが、同時に「(15) の失敗」にも十分に留意しなければならない。

通常、現在の 1 万円と将来の 1 万円は同じではない。そこで、利子率を用いて将来の価値を調整したものを (16) と呼ぶ。利子の計算には、(17) と (18) の 2 つがある。(17) では元本にのみ利子がかかるが、(18) では利子が利子を生む。

また、利子率には (19) と (20) という異なる概念が存在する。(19) は現実に使用されているものであり、(20) は (19) からインフレ率を差し引いたものである。通常、インフレ率 (物価上昇率) の計算には、基準年において 100 となるような物価指数が利用される。代表例は (21) である。例えば、物価指数が 110 から 121 に変化した場合、インフレ率は (22) % であり、110 から 99 に変化した場合には (23) % である。仮に、名目利子率が 5% であれば、実質利子率は前者のケースで (24) %、後者のケースで (25) % となる。

[第 2 問] 10,000 円で、アイスコーヒーと麦茶を買ってくるように頼まれた。アイスコーヒーが 1 リットル 250 円、麦茶が 1 リットル 200 円のと看、以下の問に答えなさい。

アイスコーヒーの購入量を x 、麦茶の購入量を y として、予算制約式を書きなさい。また、予算制約線を図示しなさい。(10 点)

以下のような ~ の組み合わせの (x , y) は購入可能か。(各 1 点、計 5 点)

. (40 , 5) . (30 , 10) . (16 , 30) . (10 , 40) . (0 , 50)

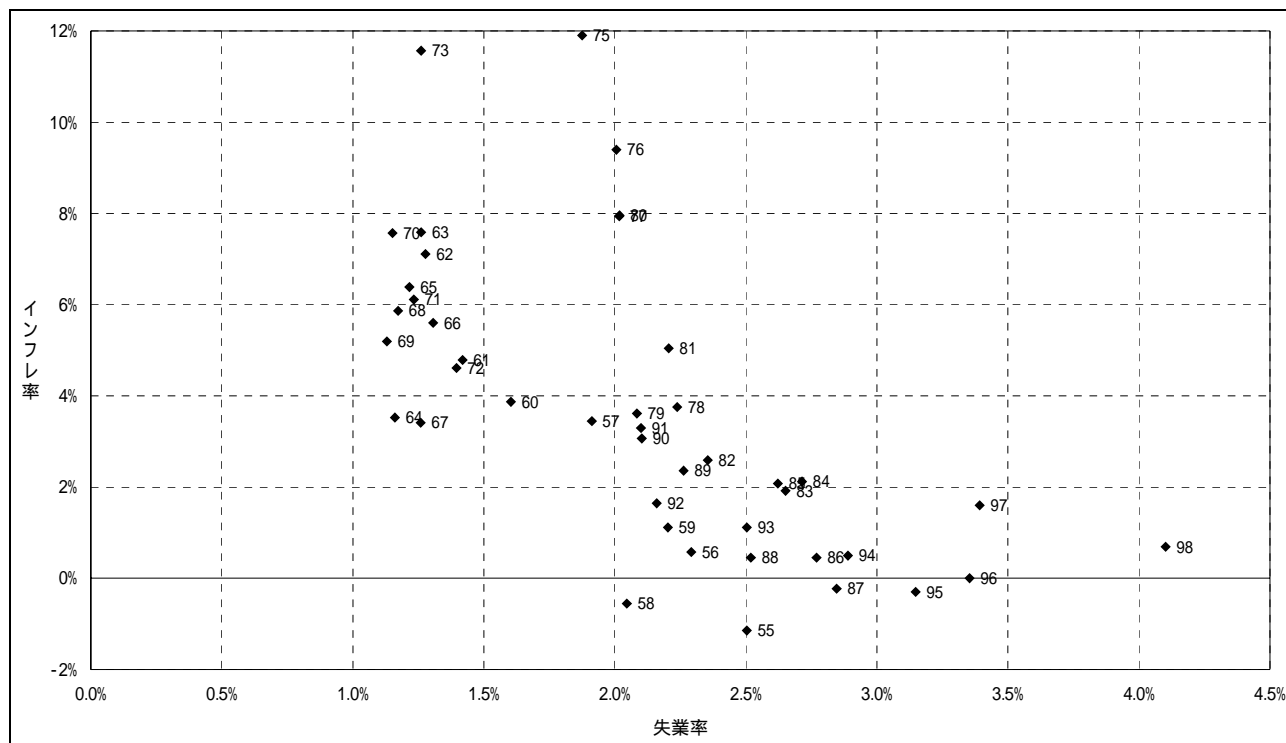
アイスコーヒーの値段が 1 リットル 400 円に上がると、予算制約式はどのように変わるか。また、図示するとどうなるか。(10 点)

[第3問] 需要・供給分析の図を用いて、以下の問に答えなさい。

しばしば、使用価値と交換価値は一致しないと言われる。例えば、水の使用価値は極めて高いのに、その価格（交換価値）は低い。逆に、ダイヤモンドの使用価値はそれほど高くないが、価格は非常に高い。このような現象は何故生じるのか。（10点）

住宅の借主を助けるために家賃を法的に低く抑えることを「家賃統制」と呼ぶ。このような政策は、経済学的にいかなる帰結をもたらすか。（15点）

[第4問] 下の図は、日本の完全失業率とインフレ率の関係を示したものである（各点の横の数字は西暦の下二桁）。この図を参考にして、以下の問に答えなさい。



注：1974年は図の枠外にあり、失業率1.4%、インフレ率24.4%である。

このような関係を何というか。また、一般に（日本に限らず）この関係が意味することを説明しなさい。（10点）

日本経済について、上図から何が読み取れるか。この関係を念頭に論述しなさい。（15点）

[第5問] 経済成長の要因について答えなさい。

経済成長を規定する要因にはどのようなものがあるか。（10点）

上記の要因に対して、政府の経済政策は影響を及ぼすことができるか。また、できるとすれば、どのようなメカニズムに拠るか。（15点）